

夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0（案）について

（説明資料）

大阪府・大阪市

報告事項

1. 前回（2026.2.12）の副首都推進本部（大阪府市）会議以降の取組

- （1）大屋根リングの部材の状態の確認
- （2）記念公園ゾーンの財源構成（案）について
- （3）2025年日本国際博覧会成果検証委員会

確認事項

2. 夢洲第2期区域マスタープランVer.3.0（案）

3. 今後の進め方

1. 前回（2026.2.12）の副首都推進本部（大阪府市）会議以降の取組

夢洲まちづくり構想 【平成29(2017)年 策定】

夢洲まちづくり基本方針【令和元(2019)年 策定】

【2022】 夢洲第2期区域（大阪・関西万博跡地）に係るマーケット・サウンディングの実施

【2024. 9】 夢洲第2期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集の実施
【2025. 1】 2件の優秀提案の決定

【2025. 4】 「夢洲第2期区域マスタープランVer.1.0」の策定

【2025. 5~9】 「大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会」

【2025. 10】 「夢洲第2期区域マスタープランVer.2.0」の策定

【2025. 12】 「第1回 2025年日本国際博覧会 成果検証委員会」

【2026. 2】 第20回 副首都推進本部（大阪府市）会議

大屋根リングの部材の状態の確認

【2026. 2】 「第2回 2025年日本国際博覧会 成果検証委員会」

【2026. 4】 「第3回 2025年日本国際博覧会 成果検証委員会」

1. 前回（2026.2.12）の副首都推進本部（大阪府市）会議以降の取組

（1）大屋根リングの部材の状態について

- ・ 構造上重要な箇所について、重大な課題がないか確認を行った

内 容		方 法 ・ 目 的	結 果
柱、梁	地震・風の履歴	竣工後の地震・気象記録により、設計時に想定した規模を上回る揺れや風を受けていないことを確認	設計想定を上回る記録なし
	木材への日射・降雨などの影響	目視調査により、木材表面の変色・割れなどの変状を観察し、強度低下につながる劣化の兆候が見られないことを推定	概ね問題ないものと推定
	木材の接着性能	公的な検査機関における試験により、木材を貼り合わせた部分の接着状態について確認	試験確認済み
基礎	コンクリート躯体の状態	目視調査により、構造上問題となるようなひび割れや損傷等がないことを推定	概ね問題ないものと推定
地盤	リング残置部周辺の地盤の状態	沈下観測記録を基に、リング残置部周辺の観測点間において沈下差が大きくなっていないことを推定	概ね問題ないものと推定

現時点での部材の健全性を確認（今後、詳細な調査等が必要）

1. 前回（2026.2.12）の副首都推進本部（大阪府市）会議以降の取組

（2）記念公園ゾーンの財源構成（案）について

- 財源構成（案）に基づき、成果検証委員会での議論や関係省庁との協議を進めてきた

	設計調査費・改修・整備		管理運営	
	財源(案)	概算費用(参考値)	財源(案)	概算費用(参考値)
<u>大屋根リング</u>	<u>剰余金</u>	<u>40億円※</u>	<u>剰余金</u> (民間資金の活用も検討)	<u>1.5億円/年※</u> (リングのみ)
記念館	国の交付金や補助金、 個別企業の協力を検討 府・市が負担 (原則、府市折半)	検討中		
記念公園		検討中	市の負担 (民間資金の活用も検討)	検討中
基本設計及び調査等 (大屋根リング、記念公園、記念館)		2億円	—	—

※博覧会協会の試算であり、概算費用については、今後、設計等を実施し算出が必要

・ 剰余金の活用について、2025年日本国際博覧会成果検証委員会で議論 ⇒ リングの初期改修や維持管理(20年間程度を想定)等に剰余金を活用する。*

国の交付金や補助金について、引き続き関係省庁と協議 ⇒ 記念公園ゾーンの基本調査には地域未来交付金を活用し、その結果を精査しながら、具体的な整備を進めていく。*

※第3回2025年日本国際博覧会成果検証委員会資料より

1. 前回（2026.2.12）の副首都推進本部（大阪府市）会議以降の取組

（3）2025年日本国際博覧会成果検証委員会

○ 委員会メンバー

<委員>

- ・ 十倉 雅和 2025年日本国際博覧会協会 会長 <座長>
- ・ 池坊 専好 華道家元池坊 次期家元
- ・ 五神 真 理化学研究所 理事長
- ・ 佐野 真由子 京都大学大学院 教授
- ・ 西尾 章治郎 国際高等研究所 所長
- ・ 藤本 壮介 大阪・関西万博 会場デザインプロデューサー
- ・ 藤原 紀香 日本館 名誉館長
- ・ 宮地 純 リシュモンジャパン合同会社 カルティエ プレジデント&CEO
- ・ 山極 壽一 総合地球環境学研究所 所長

<関係者>

- ・ 吉村 洋文 大阪府知事
- ・ 横山 英幸 大阪市長
- ・ 松本 正義 関西経済連合会 会長
- ・ 鳥井 信吾 大阪商工会議所 会頭
- ・ 小林 健 日本商工会議所 会頭
- ・ 國部 毅 2025年日本国際博覧会協会財務委員会 委員長
- ・ 石毛 博行 2025年日本国際博覧会協会 事務総長

（五十音順・敬称略）

○ 開催経過

- ・ 令和7（2025）年12月25日 第1回 成果検証委員会
- ・ 令和8（2026）年2月27日 第2回 成果検証委員会
- ・ 令和8（2026）年4月27日 第3回 成果検証委員会

1. 前回（2026.2.12）の副首都推進本部（大阪府市）会議以降の取組

（3）2025年日本国際博覧会成果検証委員会

レガシー展開にかかる基本方針および剰余金の配分・事業実施体制

【大阪・関西万博のレガシー展開にかかる基本方針】

- 万博の成果を一過性のものとせず、レガシーとして後世に引き継ぐために、(1)万博で創られた「つながり」の拡大・発展、(2)万博を契機とした創造活動の深化・展開、(3)夢洲の「場の記憶」の継承・展開、の3つの取組の柱でレガシー展開を進める。
- 国、地元自治体、経済界、関係機関が連携して取組み、新技術の実装等による経済の発展、学術・文化を含めた国際交流や観光の拡大、将来世代の育成等を実現していくことを目的とする。
- 剰余金についてはこれら関係主体の取組（剰余金以外の別財源により対応するものを含む）が持続的かつ円滑に実施されるよう、後述する割合で配分し、戦略的に活用していくことが適当と考える。
- レガシー展開の取組にあたってはハードだけでなくソフトも重視し、大阪・関西ワイドとグローバル・ナショナルワイドの視点で整理する。また、国内展開に留めることなく、国際社会や将来の万博にも展開していく。
- 万博の来場者だけでなく、来場できなかった方々や将来世代にもレガシーを届けることを念頭に置き、仕組みを構築する。

【剰余金の配分・事業実施体制】

- 3つの取組の柱に、剰余金をそれぞれ均等に配分する。
- 資金管理の観点から、大阪・関西ワイドで取り組むもの、大阪・関西に限らずグローバル・ナショナルワイドで取り組むものに対して、3つの取組の剰余金の総計を均等に配分する。
- グローバル・ナショナルワイドで取り組むものに関しては、経済産業省の政策的な関与の下、JETROを始めとした関係機関との連携を図りながら、基金設置や信託制度を活用しつつ、具体的な使途・実施体制を検討・決定していく。
- 大阪・関西ワイドで取り組むものに関しては、地元自治体・経済界・国が一体となり設置した未来創造会議にて具体的な使途・実施体制を検討・決定していく。

【出典】第3回 2025年日本国際博覧会成果検証委員会資料より抜粋

1. 前回（2026.2.12）の副首都推進本部（大阪府市）会議以降の取組

（3）2025年日本国際博覧会成果検証委員会

（3）夢洲の「場の記憶」の継承・展開

- 夢洲の会場で育まれた**共創の記憶と熱気は、多くの人々の心に深く刻まれている**。万博の跡地として開発される「夢洲」において、**記念公園ゾーンの整備やソフトコンテンツを活用したイベント等を通じて、こうした「場の記憶」を継承・展開し、観光誘客の拡大・地域振興にも繋げていく。**
- **大阪府・大阪市により進める万博跡地（夢洲第2期のみならず、その周辺区域を含む）のまちづくりのベースとなるマスタープランにおいて、夢洲をレガシー継承の先導的な役割を果たす「場」として位置づけ、リングや静けさの森に象徴される「場の記憶」を継承し、夢洲全体で官民が一体となって万博の記録や成果を日本・世界へ発信する機能の導入を目指す。**
- 事業の性質に鑑み、**開催地域に根ざした形で実施していくことに比重をおくため、剰余金は大阪・関西ワイドでの展開を中心に、グローバル・ナショナルワイドにも一定の割合（取組全体の3割程度）で配分する。**

取組内容

■ : グローバル・ナショナルワイドで取り組むもの

■ : 大阪・関西ワイドで取り組むもの

■ : 双方にまたがるもの

(剰余金以外の別財源により対応するものを含む)

■ 記念公園ゾーンの整備

- **大屋根リングを一部（約200m）残置するとともに、その外側近くに「EXPO2025記念館（仮称）」を整備し、万博レガシーを振り返る展示や来館者の交流、地方創生や産業創出を行うスペースを設け、全体を記念公園ゾーンとして整備する。**
- **記念公園ゾーンの基本調査には地域未来交付金を活用し、その結果を精査しながら、具体的な整備を進めていく。**
- **リングの初期改修や維持管理（20年間程度を想定）等に剰余金を活用する。**

■ ソフトコンテンツの整備（万博跡地におけるレガシー発信等）

- VRなど最先端技術を活用し、大阪・関西万博当時を体験できるコンテンツを整備する。

■ 記念公園での文化・芸術イベント

- 持続的な文化・芸術イベントや音楽イベントなどを実施し、記念公園を交流の場として活用する。

■ 万博に関連した広域観光促進

- 夢洲というレガシー拠点を活かして観光誘客の拡大を図り、周辺地域へもその効果を波及させていく。

【出典】第3回 2025年日本国際博覧会成果検証委員会資料より抜粋

1. 前回（2026.2.12）の副首都推進本部（大阪府市）会議以降の取組

（3）2025年日本国際博覧会成果検証委員会

○ 委員会での主な意見

■ 夢洲に関すること

- 多様でありながら一つというレガシーを作ったということの後世に残す上で、大屋根リングと静けさの森は欠かせないもの。【山極委員】
- 持続可能な未来社会の実現に向けて、万博の理念を継承し、その成果を関西、日本の成長につなげていくため、具体的な行動に移していくことを経済界の総意。【松本会長】
- 跡地開発で大屋根リングや静けさの森を残す方針はありがたい方針であるが、「場所の記憶」が大事。跡地開発は、夢洲2期と3期などに分かれているが、大屋根リングは3期区域にあったウォータープラザにオーバーラップして建っていたことから、2期と3期というエリアを越えて、全体像として跡地開発のビジョンを事業者に提案してもらうことも可能にするか、その方向で議論していくことなどをマスタープランに明記してほしい。【藤本委員】
- 剰余金をどう使うかの観点では、大屋根リングの一部残置、会場跡地でレガシーを発信する取組、最先端技術の実装化を後押しする仕組み、国際的なイベントや会議の継続開催が重要。【吉村知事】
- 夢洲2期区域においては、万博の成果を継承し、音楽、アート、先進技術といった多様な取組の展開と交流の促進を図るとともに、国内外への情報発信に取り組みたい。大阪府・市が中心となり、記念館や公園を整備し、周辺の民間開発エリアと合わせて万博のわくわく感を再現することで、万博のレガシーを日本、世界に発信する拠点としたい。【横山市長】
- 開催地である夢洲をレガシーの発展・継承の拠点にするべき。【十倉座長】

【出典】2025年日本国際博覧会成果検証委員会議事要旨より抜粋

2. 夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0（案）

前回（R8. 2. 12）の副首都推進本部（大阪府市）会議で確認した「マスタープランVer. 3.0（案）の作成方針」に加え、政府の成果検証委員会における、レガシー展開の方向性や剰余金の活用方針を含む具体的方策の取りまとめを踏まえ、夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0（案）を作成する。

Ver. 2.0からの変更概要

土地利用方針
《土地利用計画（ゾーニング）》

- ・ 「公園・緑地等ゾーン（今後検討）」を「記念公園ゾーン」に変更し、記念公園ゾーンの方針、他ゾーンとの連携を追記

都市空間形成方針

- ・ 大屋根リングの記憶を想起させる空間などの形成をめざすことを追記
- ・ 記念公園ゾーンからにぎわい軸の形成を追記

万博レガシーの継承と発信

- ・ 夢洲全体で万博の記録や成果を日本・世界へ発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能の導入をめざすことを追記
- ・ 大屋根リングの記憶を想起させるまちづくりをめざすことを追記
- ・ 第2期区域のみならず、その周辺も含めた一体的なまちづくりをめざすことを追記
- ・ 第2期区域において、万博の成果を継承し、数多くの先進技術に触れる取組等を展開し、これらを日本・世界へ発信することを追記
- ・ 「大屋根リングの利活用」を「記念公園の整備」に変更し、ハードレガシーとして、公共が記念公園、大屋根リング、記念館を整備することを追記

2. 夢洲第2期区域マスタープランVer.3.0（案）

3. 土地利用方針

- ・「公園・緑地等ゾーン」を「記念公園ゾーン」に変更し、記念公園ゾーンの方針、他ゾーンとの連携を追記

《土地利用計画（ゾーニング）》

① ゲートウェイゾーン

- ・夢洲の玄関口として、人・モノが交流し、来訪者に高揚感（ワクワク感）・期待感を与えるにぎわい機能や交流機能等の導入
- ・夢洲の立地特性を活かしたナイトアクティビティや、他では経験できない体験（ガストロノミー体験など）が可能な機能等の導入
- ・大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーンや記念公園ゾーンに導入される機能と連携した大阪が強みを持つ産業・研究の拠点機能や展示機能、万博を契機に創出される最先端技術やイノベーションに触れられる機能等の導入
- ・来訪者の交流や回遊の拠点となる広場の整備

② グローバルエンターテイメント・レクリエーションゾーン

②-1 スーパーアンカーゾーン

- ・世界中の人々をひきつけ、ここでしか体験できない「非日常空間」を創出する大規模で統一されたコンセプトに基づくとともに、多くの人に開かれ環境に配慮したエンターテイメント機能やレクリエーション機能の導入
- ・水・みどりに楽しめる空間やオープンスペースなどの整備とともに、子供を対象としたアクティビティなど、ファミリーで楽しめる機能等の導入
- ・地区内の来訪者の回遊性を高める、交流ゾーン、I R連携ゾーン、記念公園ゾーンと連携した機能の導入

②-2 交流ゾーン

- ・ゲートウェイゾーンからの人の流れ、にぎわいをスーパーアンカーゾーンや記念公園ゾーン等の隣接するエリアへつなげるハブ拠点の形成
- ・人・情報の交流を促し、にぎわいを創出する展示・交流機能やレクリエーション機能等の導入

③ I R連携ゾーン

- ・隣接する第1期区域（I R区域）や記念公園ゾーンと連携することにより相乗効果を高める機能の導入

④ 大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーン

- ・ヘルスケアパビリオンの取組を継承するため、先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能を導入
- ・記念公園ゾーンと連携し、残置または移築するパビリオンの一部と一体となったにぎわい機能を導入

⑤ 記念公園ゾーン

- ・万博レガシーをわかりやすく継承するため、万博会場のシンボルであった大屋根リングと一体となったみどりに親しめる空間の整備
- ・万博で披露された最先端技術の発信、ビジネスや文化等の交流を通じて地方創生や産業振興に取り組む

2. 夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0 (案)

4. 都市空間形成方針

- ・ 大屋根リングの記憶を想起させる空間などの形成をめざすことを追記
- ・ 記念公園ゾーンからのにぎわい軸の形成を追記

【基本的な考え方】

- ・ 多様な用途・高質なデザインの建築物や水・みどりあふれる空間、万博のハードレガシーなどが相互に機能的・空間的に連携することで、夢洲でしか実現・体験できない「非日常」を演出する空間を創出する。
- ・ 歩いて楽しめる賑わいのある空間や、大屋根リングの跡地付近において大屋根リングの記憶を想起させる空間などの形成をめざし、区域内の回遊性・利便性の向上などに配慮するとともに、万博を契機とする新たな技術やサービス等の実証・実践の場としての活用にも配慮する。
- ・ アイコニックな建築物や施設配置などにより、まちの骨格となる街路や記念公園だけでなく、空・海などからの視点を意識した世界に誇れる大阪のランドマークとなるシンボリックな都市景観を形成するとともに、水辺空間を活かした象徴的で魅力ある夜間景観を形成する。
- ・ 隣接する区域の施設にも配慮し、隣接街区と調和のとれた景観や機能を形成する。

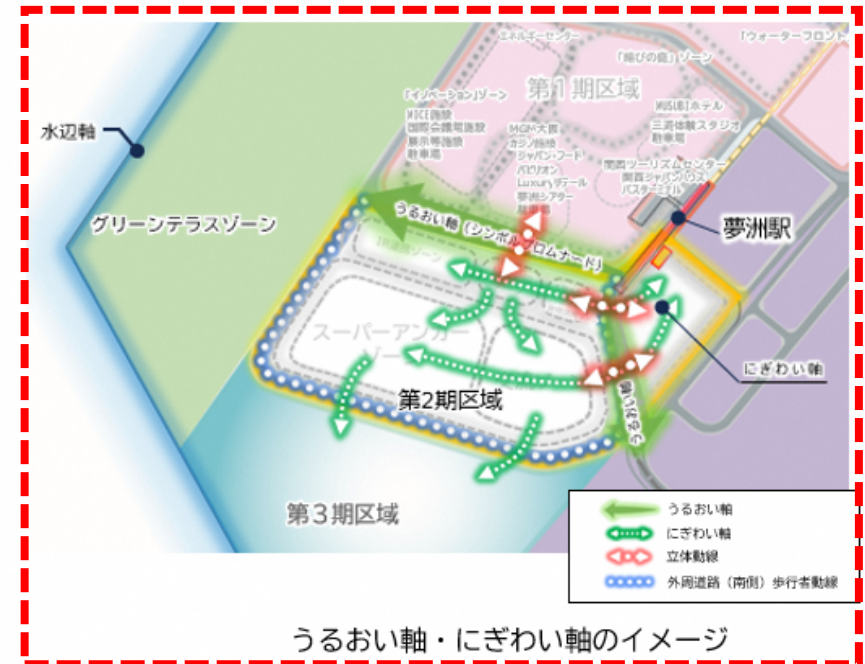
(1) まちの骨格の形成

① うるおい軸

- ・ 駅前から水辺軸（大阪湾）へ直線的かつ開放的な眺望を確保するとともに、水・みどりを効果的に配置した「うるおい軸」を形成。
- ・ 夢洲駅から西へ伸びるシンボルプロムナードは水・みどりあふれる空間として、第1期区域と統一感のある景観形成に努める。また、沿道建築物の壁面後退により確保する敷地内のパブリックスペースにより連続したオープンスペースを確保し、水・みどりに親しめる空間の整備などによって歩道と一体となった、ゆとりとうるおいのある歩行者空間の創出を図る。

② にぎわい軸

- ・ 駅前から第2期区域内の各ゾーンを結び、将来的には第3期区域に至る、にぎわいを創出する歩行者の主動線として「にぎわい軸」を形成。
- ・ 記念公園ゾーンから各ゾーン、静けさの森の樹木を活用した緑地等を結び、水とみどりなどで構成された居心地の良いにぎわい軸を形成。
- ・ 「にぎわい軸」に面する建築物の低層部には商業機能等を導入するとともに、イベントスペースとなるたまり空間の配置や低層部のデザインの工夫などにより、水・みどり空間とにぎわいが融合した個性豊かなまちなみを創出し、歩いて楽しい歩行者空間の形成を図る。



2. 夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0 (案)

6. 万博レガシーの継承と発信

《夢洲での取組》

- MICE機能などを有する第1期区域（IR区域）と第2期区域、第3期区域（将来）が連携し、万博開催地である夢洲をレガシー継承の先導的な役割を果たす「場」と位置づけ、夢洲全体で万博の記録や成果を日本・世界へ発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能の導入をめざす。
- 大屋根リングの跡地付近においては、大屋根リングの記憶を想起させるまちづくりをめざす。
- 万博レガシー継承の観点から第2期区域のみならず、その周辺も含めた一体的なまちづくりをめざす。

- 夢洲全体で万博の記録や成果を日本・世界へ発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能の導入をめざすことを追記
- 大屋根リングの記憶を想起させるまちづくりをめざすことを追記
- 第2期区域のみならず、その周辺も含めた一体的なまちづくりをめざすことを追記

【第1期区域】

- 国際競争力を有するMICE施設の整備やICT等最先端技術を活用したスマートなまちづくりによる国際観光拠点を形成

【第2期区域】

- 万博の理念継承し国際観光拠点形成を通じて「未来社会」を実現するまちづくり

【第3期区域】

- 第1・2期で創出された最先端技術等により、健康や長寿につながる長期滞在型の上質なリゾート空間を形成

【グリーンテラスゾーン】

- みどりあふれるオープンスペースや親水空間を形成し、中央部で展開されるエンターテインメント機能等と連携する機能を導入するなど、中央部と一体感のある国際観光拠点を形成



2. 夢洲第2期区域マスタープランVer.3.0 (案)

6. 万博レガシーの継承と発信

- 第2期区域において、万博の成果を継承し、数多くの先進技術に触れる取組等を展開し、これらを日本・世界へ発信することを追記

《第2期区域での取組》

- 万博の成果である「つながり・交流の拡大、深化」、「新たな価値観への気づき・共有」、「新たな取り組みとして生み出した技術・システムの実証」などを継承し、環境に配慮しながら多くの人に開かれた、音楽、アートやスポーツなどを題材とした取組、国内外の若者の夢や心身を育む取組、数多くの先進的技術に触れる取組を展開し、これらを日本・世界へ発信する。
- 記念公園ゾーンでは、これらの取組みを展開する「場」として、府市が中心となって、記念公園の整備・大屋根リングの一部残置・記念館の整備を行うこととし、最先端技術の発信、地方創生や産業振興に取り組む。
- あわせて、民間開発エリアでは、「静けさの森」の理念の継承に取り組むとともに、非日常空間の創出や、万博で実証された「未来社会の実現」に資する取組を条件とする公募を実施する。
- 大阪ヘルスケアパピリオン跡地活用ゾーンにおいて、開発事業者が、万博で取り組んだ先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る事業を実施するとともに、これらに係る情報発信に取り組む。

記念公園ゾーン(約2.9ha)

【記念公園】

- みどりに親しめる空間を整備し、交流や出会いを促す「場」を創出

【大屋根リング】

- 万博レガシーのシンボルとして、約200mを残置し展望台として改修

【記念館】

- 万博の記憶や万博で披露された最先端技術の情報発信や、ビジネスや文化等の交流の場の創出

民間開発エリア(約42ha)

- 大阪が強みを有する産業や研究機関の成果などのショーケース機能の導入
- 最先端技術の実践・実証
- 都市データ等を活用したプロジェクトを創出するスマートプラットフォームの構築
- 静けさの森の樹木を利活用した、まちづくりと一体となった緑地等の整備

ヘルスケア跡地活用ゾーン(約1.5ha)

- 先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能の導入と、これらに係る情報発信

<第2期区域>



2. 夢洲第2期区域マスタープランVer.3.0 (案)

6. 万博レガシーの継承と発信

- 「大屋根リングの利活用」を「記念公園の整備」に変更し、ハードレガシーとして、公共が記念公園、大屋根リング、記念館を整備することを追記

(1) ハードレガシー

① 記念公園の整備(大屋根リングの利活用)

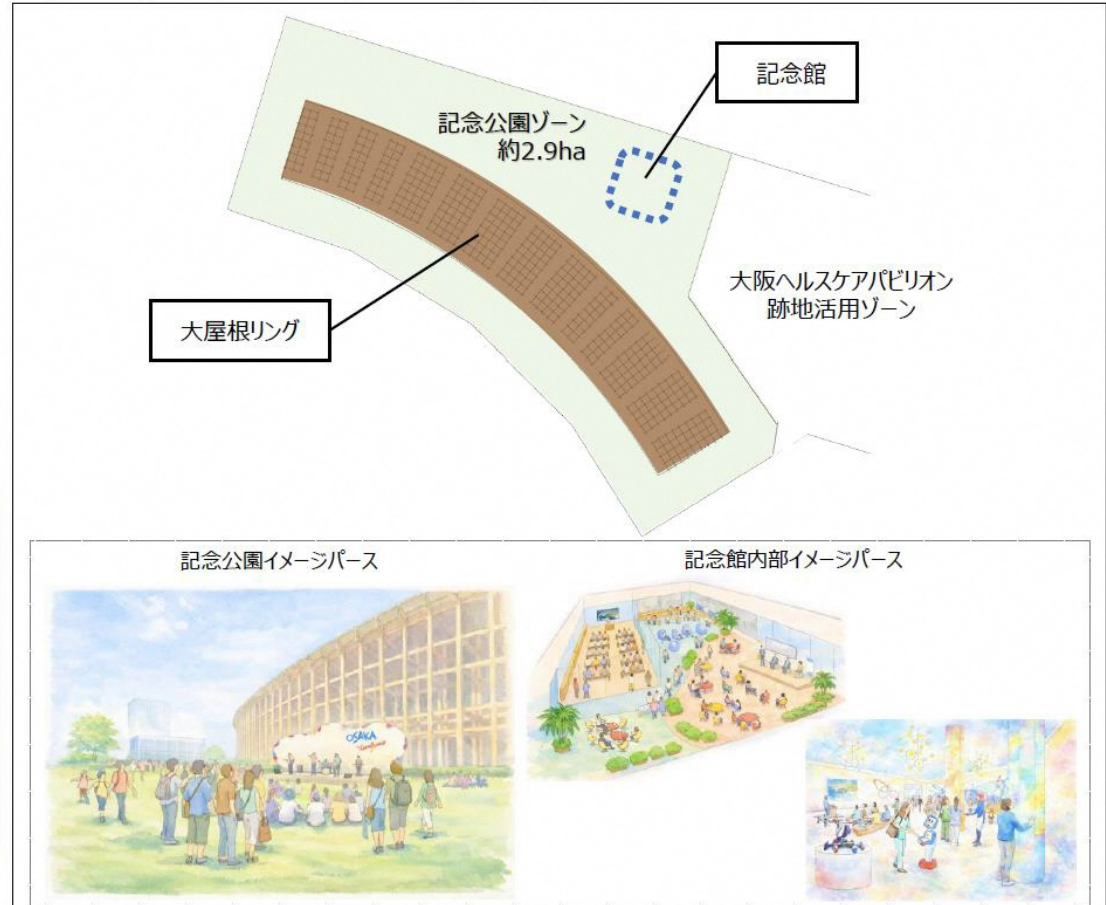
○ 整備の方針

- 万博では、大阪・関西をはじめ日本中、世界中からの来場者とともに万博を共創しつつ、大屋根リングに体现される「多様でありながら、ひとつ」とのメッセージを世界に発信した。
- こうした万博の記憶を後世につなげるため、大屋根リングを一部残置し、その周辺エリアを記念公園として整備するとともに、万博で披露された最先端技術の発信や、ビジネスや文化等の交流を通じて地方創生や産業振興に取り組む。

○ 整備の概要

記念公園	<ul style="list-style-type: none"> 大屋根リングと一体となったみどりに親しめる空間の整備 種別：緑地等 面積：約2.9ha
大屋根リング	<ul style="list-style-type: none"> 準用工作物として人が登れる形で利活用 最先端技術を活用し、当時の万博を体験 延長：約200m
記念館	<ul style="list-style-type: none"> 万博の記憶や、万博で披露された最先端技術の情報発信 ビジネスや文化等の交流の場の創出

記念公園の整備（大屋根リングの利活用）イメージ



【大屋根リングの概要】

- 日本の神社仏閣などの建築に使用されてきた伝統的な貫（ぬき）接合に、現代の工法を加えて建築
- 会期中は、会場の主動線として円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用

- ・建物用途 歩廊（仮設建築物）
- ・建築面積 約60,000㎡（水平投影面積）
- ・長さ 約2,200m（内径：約615m、外径：約675m）
- ・幅 約30m・高さ12m（外側20m）

提供：2025年日本国際博覧会協会



3. 今後の進め方

- 本日の副首都推進本部（大阪府市）会議での議論を踏まえ、以下のとおり手続きを進める

2026年4月30日

副首都推進本部（大阪府市）会議

・ 夢洲第2期区域マスタープラン Ver. 3.0（案）について

パブリックコメントの実施
府議会・市会での議論

} 約1～2カ月

夢洲第2期区域マスタープラン Ver. 3.0の策定

夢洲第2期区域開発事業者募集の開始